

各学校や地域における地域学校協働活動の推進を目的に、地域と学校の連携・協働に関する情報を発信する連携協働通信「架け橋」を発行しています。当課のWebサイトでもご覧いただけます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/chiikirenkei/gakkoushien.html>

名瀬小学校 学校運営協議会 視察報告

8月30日（水）に、戸塚区の名瀬小学校で学校運営協議会が開催されました。名瀬小学校の学校運営協議会は平成26年に立ち上がりました。名瀬小学校の中嶋校長は、「教育目標の【自立】、学校目標の【自分と相手を大切に、考え行動する名瀬っ子～一人ひとりが安心して通える学校～】を目指している中で、教育活動において地域がとても協力的であり、教職員も子どもたちのために一生懸命取り組んでいる。名瀬小学校の強みや課題を洗い出し、社会に開かれた教育課程の実現に向け、学校と地域と一緒に進めていきたい。」と話していました。また、コロナ禍で様々なことが制限され、地域の方々との関わりがもてなかったこともあり、太田副校長の発案で、教職員と地域や保護者等で構成されている学校運営協議会委員が熟議の場を設けるとのことで、学校支援・地域連携課もオブザーバーとして参加させていただきました。

協議会の熟議は、「地域の材を活かした特色ある学校づくりに向けて」というテーマのもと5グループに分かれて実施されました。各グループで様々な話が展開されました。

「地域ケアプラザとつながったことで、協力体制を作ることができ、多くの情報を得ることができた」

「地域の里山、田んぼを地域の協力体制のもと、本物の体験、リアルなつながりを作れている」

「学年職員や担当が変わってしまうことで、地域とうまく繋がれないことがあった」

「協力してくれる保護者は沢山いるので、もっと保護者を頼ってほしい」



今回、多くの参加者が子どもたちのために自分事としてお話をしていたのが印象的でした。今回の協議会には、上菅田笹の丘小学校の世古校長が講師として参加し、協議会委員の方々や教職員に自校の実践を紹介し、学校運営協議会の在り方について話しました。教育委員会事務局からも、今回出た話をこれで終わりにしてしまうのではなく、課題解決のきっかけとすることや、何らかのアクションにつなげられたいのではないかとお話をさせていただきました。今回の名瀬小学校の取り組みは教職員と協議会委員が熟議の場をもつという形でしたが、同じような取組を行っている学校もあると思います。今回のような取り組みを参考に、より充実した学校運営協議会となるよう、教育委員会事務局としても発信を続けていきたいと思っております。

第3回 学校・地域コーディネーター養成講座 報告

9月1日（金）、4日（月）に、第3回学校・地域コーディネーター養成講座を実施しました。



地域社会や企業等と連携した教育活動を通して、資質・能力を育成し、各校の教育課程における自分づくり（キャリア）教育の充実を図ることを目的とした「はまっ子未来カンパニープロジェクト」について、小中学校企画課 日比野指導主事が説明しました。

目指す資質・能力は、次の2点です。

- ①「チャレンジ精神・実行力・協働性・創造性・リーダーシップ」（起業家精神に係る資質・能力）
- ②自分自身も持続可能な社会の創り手であることに気付き、社会参画しようとする態度

①に関しては、「起業家」になる人を育てるのではなく、あくまでも「起業家精神」に係る資質・能力を育成するということが、②に関しては、「参加」ではなく「参画」する、計画の段階から関わっていくことが大切であることが伝えられました。

各学校が「はまっ子未来カンパニープロジェクト」に取り組むにあたり、学校が自主的に連携機関を見つけることを基本としています。ただし、学校で連携機関を見付けられない場合や連携機関の紹介を希望する場合は、自校の学校・地域コーディネーターに相談することを周知しています。養成講座受講中の学校・地域コーディネーターへ依頼がある場合もあるとのことでした。

また、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」に参加していない学校・クラスでも、「総合的な学習の時間」で、連携機関（専門家）等と協働しながら学習を進めている例は多くあること、「総合的な学習の時間」以外にも、連携機関（専門家）等と連携できる教科等があることの紹介もありました。

「はまっ子未来カンパニープロジェクト」についての概要を知ったところで、事例演習を行いました。

みなさんのもとへ、先生からこのような相談がきたらどうしますか？

乾燥野菜を使用した商品開発を検討中。
パン屋、お弁当屋などがあれば紹介してほしい。

パフォーマンス系（ダンス・音楽）で
連携できるところを紹介してほしい。

幅広い年齢の皆さんに効果的に理解していただける
動画作成の技術や情報伝達の上で大切なことを教えて
くださる企業や専門家と連携したいと考えており
ます。



夏休み明けから少しずつ活動を始めていきたいので、
リサイクル楽器づくりに長けている団体さんの紹介に
ついてご相談させていただきたいです。

テーマ・・・「食品ロス」

・最終的なゴール

…「廃棄食材から物をつくる」

（お野菜クレヨン、石鹼、絵の具等）

・どのような企業と連携したいか

…廃棄食材からものづくりを支援してくれる企業



実際に学校から依頼があった場合、どのように対応するかを具体的に考えていきました。

まずは、学校のニーズや詳細を管理職や担任教諭に確認することが挙げられました。（目的、ねらいは？学年、学級は？教科等は？時期は？いつからスタートして、いつまで実施するのか？最終的なゴールは？など）

また、学校に聞くことと、企業に聞くこと（何をお願いできるのか？どこまでできるのか？目的と合致しているか？ねらいを達成できるか？など）を整理することも必要だと話題に挙がりました。



活動を進めていく上で、「子どもが調べるものなのか？学校・地域コーディネーターや教職員が紹介や提供をするものなのか？」「教師と子どもだけで進めていくのか？学校・地域コーディネーターと一緒に活動をするのか？」など、学校と授業計画等をしっかり共有して、コミュニケーションを密にしながら取組を進めていくことが大切であるということも確認していきました。

学校・地域コーディネーターよろず相談

研修の終盤では、受講者による情報交換や、先輩コーディネーターを囲んで話を聞く時間を設けました。それぞれ、悩み相談などを通して、これからの活動について見通しをもつことができました。



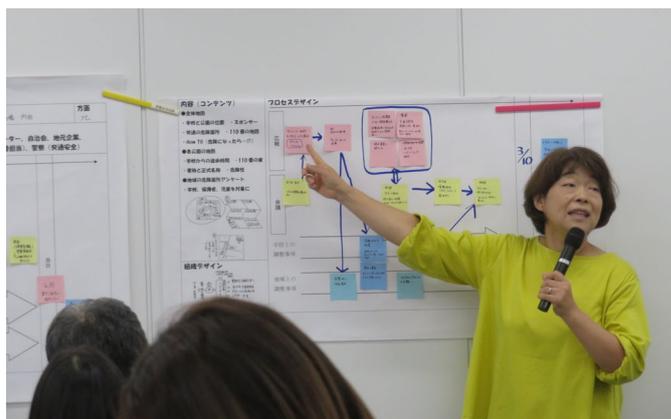
研修振り返り（自由記述）

- ・学校・地域コーディネーターとして、どう動くべきかについて考えることができた。
- ・実際にコーディネーターとして活動をしていくイメージがわく、実践に近い講座内容だった。
- ・子どもたちの学びのために、企業や地域の方と学校をつなぐ役割ができたと思った。
- ・様々な意見や疑問が出てきて、新しい発見があり楽しかった。事例が豊富で役に立った。
- ・いろいろな視点や目的を共有すること、学校側の希望を確認することの大切さを学ぶことができた。
- ・学校と協働するために、目的とスケジュールの共有は必要不可欠だと感じた。
- ・まずはグループで話し合い、違うグループの話を聞いてみるという作業が、地域学校協働本部での学校と地域との関わり方としてイメージすることができた。
- ・どこにポイントを置くか、何を目的にしていくかは、人によってさまざまだと思った。話し合いの中で方向性を決め、変わっていくことを許容することも大切だということも学んだ。
- ・目的をきちんと聞いて、自分が紹介できる人を探すことが大切だと思った。
- ・期待に応えるために、幅広い人脈、ネットワークの必要性を感じた。
- ・先輩コーディネーターの方から話を伺えて、とても勉強になった。
- ・各地のコーディネーターが行ってきた体験談を聞いて、参考になった。
- ・目的や提案の幅が広がるよう、学校・地域コーディネーター間での情報交換も必要だと感じた。
- ・今回の学びを、自校でのコーディネーターのミーティングで共有したい。

第4回 学校・地域コーディネーター養成講座 報告

第4回学校・地域コーディネーター養成講座は、方面別に4日間開催しました。(9月19日北部、22日東部、27日西部、29日南部)講師として、横浜市学校・地域コーディネーター連絡会 高橋由美子様、ファシリテーターとして、参画はぐくみ工房代表 竹迫 和代様をお招きし、ワークショップ形式の研修を行いました。

今回は、昨年度の養成講座で作成された「活動の企画」をもとに、**企画の実施に向けてのプロセス**を考えることを通じて、実際に活動する際の手がかりについて学んでいきました。



「花咲コインで子どもまつり」

(概要)

- ・小学校児童委員会で発案された。
- ・それを受け、学校運営協議会で周年行事のイベントとして企画案が出された。

「お仕事フェスティバル

～さがしてみよう！！ぼくのわたしの未来の姿～

(概要)

- ・総合的な学習の時間、横浜の時間に実施したいと、教職員から相談があった。

「ぼくらのサバイバルマップ」

(概要)

- ・学校・地域・家庭で、地域独自の防犯マップを作成する企画があったが、コロナ禍でストップしていた。
- ・管理職より、再スタートの依頼があった。

「海外生活をバーチャルホームステイ」

(概要)

- ・国際理解の一環として、担当の先生より、ITを使った授業の相談があった。
- ・バーチャルでホームステイができるのではと提案したところ、実現したいと依頼を受けた。

以上の4つの企画をもとに、活動のプロセスについて考えていきました。視点としては、**広報**(どこに向けて、どの媒体で、何を発信するか?)、**会議や打合せ**(誰と、どこで、どんなテーマで話し合いをするのか?)、**学校との調整**(学校とは、どの段階で、どんな調整が必要か?)、**地域との調整**(地域とは、どの段階で、どんな調整が必要か?)を提示しました。グループごとに、必要なことを書き出しながら、企画のプロセスについての話し合いを進めていきました。

第3回の養成講座で学んだことを生かして、どのグループも具体的で実践的な議論が交わされていました。企画のプロセスの詳細は、第5回養成講座で発表、共有していきます。



研修振り返り (自由記述)

- ・各校の取組も一緒に共有でき、より実践的だった。
- ・チームワークが生まれていくのがよかった。
- ・見える化、視覚化の大切さを学ぶことができた。
- ・グループワークで話し合いをする中で、自分たちの立場をよく理解することができた。
- ・実施するまでに、たくさんの人とたくさんの打ち合わせが必要で大事なことが分かった。
- ・学校は、本当に多岐にわたって地域や家庭等とつながっているのだと思い直した。
- ・目的を明確にして、大きな流れを決めつつ、細かい部分について話し合うことができた。
- ・同じテーマでも、それぞれ考え方、受け取り方が違うので、認識のすり合わせが大切と感じた。
- ・プロセスを考えるのは難しかったが、グループで協力し、楽しく有意義な時間が過ごせた。



今後の研修のお知らせ

学校運営協議会委員及び学校・地域コーディネーター及び教職員合同研修

学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター、教職員を対象に研修を行います。
ぜひ、学校運営協議会等で対象の方々にお声掛けください。

1 日時及び会場

	日 時	会 場
1	10月25日(水) 15:00～	花咲研修室
2	10月31日(火) 15:00～	花咲研修室

2 内 容 ○実践校（上菅田笹の丘小学校、六浦中学校むつうら教育支援本部）による事例発表

○グループでの情報交換

※詳細は別途発出しております通知でご確認ください。

地域と学校の連携・協働による学校運営の改善研修

教職員を対象に研修を行います。教職員の方々にも地域と学校の連携・協働について知っていただきたいと考えています。ぜひ地域連携の担当教職員など対象者への周知をお願いいたします。
※本研修は教職員育成課の教育課題研修と兼ねています。

1 日時及び会場

	日 時	会 場
1	11月14日(火) 15:00～	花咲研修室
2	11月22日(水) 15:00～	花咲研修室

2 内 容 ○認定 NPO 法人こまちぷらす理事長 森 祐美子 氏の講義を予定しています。

○グループワーク

※詳細は別途発出しております通知でご確認ください。

学校運営協議会の設置について

各学校の校長先生におかれましては、10月設置の学校運営協議会についてご準備いただき本当にありがとうございます。現在の学校運営協議会の設置校数は令和5年10月現在で499校になっております。今回、様々な事情により設置ができなかった学校においては来年度の4月の設置に向けて1月中に書類と名簿の提出をお願いいたします。設置に向けて、地域との調整や委員の選定、既存の組織の運用など様々な部分において、まだ時間が必要だという学校においては、設置に向けての相談や地域の方や委員になられる方への説明などを行うことが可能です。その場合は、ぜひご相談をいただければと考えておりますので、ご連絡をいただけるとありがたいです。引き続き、よろしくお願いいたします。

学校運営協議会の令和6年4月設置について

	学校運営協議会 設置の機会
設置日	令和6年4月1日
申請書提出の締切日	令和6年1月31日

○申請の際は、設置申請書と名簿を合わせてご提出をお願いします。

※現在、単独設置の学校運営協議会を、複数校による合同協議会に切り替える場合、また複数校から単独での協議会をご検討の場合、以下の点にご注意ください。

- ① 合同で立ち上げるまでの間、単独での学校運営協議会の設置校であり続けます。
- ② 合同協議会または単独の協議会への移行について委員への丁寧な説明が必要だと考えます。
- ③ 協議会移行の際は再度、申請書と名簿の提出が必要になります。

※設置に向けてお困りの際は、学校支援・地域連携課にご連絡ください。

学校・地域コーディネーターの配置について

令和6年度 学校・地域コーディネーターの配置について

学校運営協議会と同様に、地域と学校を繋ぎ、総合調整を行う「学校・地域コーディネーター」の配置も継続して進めています。

今年度も114校の学校から169名の受講者が「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講しています。うち14校から新規の学校・地域コーディネーターが推薦されました。

現在横浜市では461校に学校・地域コーディネーターが配置されています。

「学校・地域コーディネーター」は学校長の推薦が必要で、学校長の推薦を受けた方に、年間5回の「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講していただいています。来年度の推薦に向けて新しく学校・地域コーディネーターの配置を考えている場合は推薦のご準備を進めていただければありがたいです。

また、複数人配置することで活動が活発になることも考えられますので、お仲間を増やすこともご検討ください。一度に複数名の推薦も可能であり、複数名での養成講座への出席も可能です。推薦は、令和6年4月中旬より開始予定です。推薦をもって6月より開始される学校・地域コーディネーター養成講座受講可能となります。どうぞよろしくお願いいたします。

何かお困りなことがありましたら、いつでもご相談ください。
学校支援・地域連携課 671-3278